

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300211		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホームレガーロ		
所在地	栃木県那須塩原市三島4丁目28-2		
自己評価作成日	平成26年9月13日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成26年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域密着型サービスの中のグループホームとして地域との連携を深めていきたいと思っています。今年の夏祭りにはご家族・地域の方のご参加・ご協力いただきました。これからも地域で認知症の方を共に支える力になりたいと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所全体が余裕のある造りとなっていて、入居者にも職員にも居心地のいい空間となっている。共用スペースはゆったりと広く、明るく、ゆとりがあり、居室の近くに設置されたトイレや、廊下の途中にある一休み用のベンチや畳台、風呂場前の廊下にもテレビとソファを置くなど、随所に工夫が感じられる。明るい木目調の床は、冬は床暖房が入り暖かいと好評である。また、目の前に田んぼが広がる広いテラスは、夏の流しそうめんなどの行事にも利用されている。事業所の方針として、月々の支払いを現金払いにして家族が事業所を訪れる機会にしており、請求書を送る際に入居者の様子を書いた手紙やスナップ写真を添えるなど、事業所と家族、家族と入居者をつなぐための細やかな心配りがなされている。職員は食事やレクリエーションなどを一緒に楽しみながらも、入居者へは丁寧な言葉かけをし、忙しい職務の中でも、入居者の心に寄り添い、理解に努め、待たせない対応を心掛けている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」という理念のもと実践に努めている。特に、その人らしく過ごしていただけるように工夫している。	法人としての「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」という理念について、職員は毎月の定例会議でどのように日常の支援の中で実践していくのか話し合っている。新たに入職した職員には、施設長が理念の説明を行い、実際の支援場面においては経験豊富な職員が傍について指導することで、理念に基づいた支援が徹底されるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、施設周辺を散歩し近くの保育園児や近所の方々に挨拶をしている。又、初詣やお祭りに近くの神社へ行くこともある。近所の方がお花を届けて下さることもある。	入居者が散歩に出かけた時に、近くの保育園の子どもたちと挨拶を交わしている。また、近隣の方が自宅で咲いた花を時々届けてくれて、入居者と一緒にお茶を飲んでいくこともある。併設の小規模多機能事業所と共催の夏まつりには、加入している自治会の回覧板で地域住民に参加を呼びかけて来ていただくなど、地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、地域の行事ふれあい祭りに参加することが出来た。又、踊りのボランティアとの交流もある。夏祭りも開催し、入居者と家族様と地域の方々との交流の場とされるように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度市職員、包括、地域代表の方、入居者家族様から意見を頂きサービス向上につとめている。	併設事業所と共催で、年6回運営推進会議を開いている。会議には、市職員・地域包括支援センター職員・民生委員・区長・入居者家族が参加しており、事業所からの運営状況の報告や行政情報の伝達、地域の事業の情報提供などが行われている。また、夏まつりの地域住民への参加・協力の呼び掛け方法や、防災訓練時の地域の協力を得るにはどうするか、入居者の家族間の交流をしたらどうかなど、事業所運営についても活発な意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那須塩原市ケアマネ連絡協議会には、都合がつかない限り参加している。特に包括との連携を密に取り、相談等行い協力関係を築いている。	市担当者はほとんどの運営推進会議に出席して、行政関係の情報提供や運営、入居者へのケア等についてのアドバイスなどをしてきている。市ケアマネ連絡協議会には、必ずケアマネージャー等が参加して情報収集や意見交換を行っているほか、地域包括支援センター職員にこまめに連絡や相談をするなど、良好な関係作りに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個人尊重のケアを実践し、身体拘束を引き起こす場面が出現しないように努めている。玄関の施錠も夜間のみ行うようにしている。	法人として「身体拘束に関するマニュアル」を作成済みで研修等で職員に周知を図っている。また、定例会議や日常の申し送り等で、職員が入居者に対して行動抑制に当たる言動をとっていないか確認をしている。施設長からも、定例会議等で入居者に対する適切な接し方等について職員に注意を促し、身体拘束のないケアが徹底されるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待の防止に努めている。特に言葉の暴力がないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、権利擁護に関する勉強会を行い制度への理解を関係者と共に図っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が対応し十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主として介護計画見直し時に意見や要望を聞き、入居者のよりよい生活になるように入居者とその家族との話し合いを行っている。	面会や毎月の費用支払いで家族が事業所に来た時に、対応した職員は、会話の中から家族の意向や要望を読み取るよう努めている。入居者からは食べたいものについての希望が多く出るので、できるだけ職員と一緒に出かけおやつ等を直接購入するようにしている。入居者の生活の様子を家族に伝えることが大切と考え、経費の請求書を送る際に、生活の様子を書いたメモやスナップ写真を同封しており、そのことで家族との会話も活発なものとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議等で意見や提案を聞く機会がありそれを活かすよう努めている。	毎月の定例会議では、行事の計画及び反省・入居者の生活状況とケアの見直し・業務面での改善や提案等について、職員間で活発な意見交換がなされている。会議を待たずに申し送り等で提案されたことについては、職員間で話し合った上で、管理者や施設長の判断も得て、すぐ実践できるものは実行するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り労働条件の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や合同研修を通して、学ぶ機会を設けている。資格習得への協力体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那須塩原市のサービス事業所連絡会を通して同業者との交流、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報収集に努め、出来る限り個々の要望や不安な事に耳を傾け、安心して過ごせるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の意向や思いにも寄り添うよう耳を傾け、安心してもらえるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時にご本人様・ご家族の思いや意向の聞き役となり、共に解決策を見いだせるよう話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来る事は、見守りしながら行ってもらっている。今までの知識、経験から分からないことなど教えて頂いたりしながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の日常生活情報を細かく提供するようにすることでご家族との良い関係が継続しながら共に支えられるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の小規模多機能施設と行き来することもある。小規模利用の馴染みの方や職員と繋がりがもてる様支援に努めている。	家族や親族の面会だけでなく、以前のカラオケ仲間が来て一緒に歌を歌い楽しそうに過ごす方や、兄弟の家に行ったり、お彼岸に家族と一緒に墓参りをする入居者もいる。併設の事業所からGHに移ってきた方もいるので、自由に行き来ができるよう職員が支援している。入居前から通っていたシルバーサロンに通い続けている方もおり、職員が送迎をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯物の片付けや食前食後の作業などで共同作業になるように支援したり、気持ちが合いそうな人同士が隣り合わせになるように座ってもらったり、あるいは、入居者同士で不穏になったりした場合は積極的に介入したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も出来るだけ相談を頂けるように努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見を聞き入れ、習字を行ったり希望の塗り絵を行っている。	耳の聞こえの悪い入居者もいるので、職員は筆談やジェスチャーなどを通して、その方の思いや要望等を聞きだすようにしている。家族との連絡を希望した場合は、すぐ職員が電話をかけその結果を伝えるようにしている。入居者の中には携帯電話を家族から与えられ、家族や親類・友達などと連絡を取っている方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	長年行ってきた主婦の仕事を日々取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	併設の小規模ぬくもりの看護師に体調不良者を見てもらい指示を頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が行っている。	計画作成担当者は、入居者から直接意向や要望を聞き取り、家族からは面会時の会話や電話で意見等の把握をしている。また、入居者毎に担当職員がいるので意見を聞いたり、定例会議議事録や送りノートからの情報収集等を行って介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録と申し送りノートの活用によって情報が共有され、日々のケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力を得て外食又は住み慣れた自宅へのお泊りで気分転換を図るなどしている。又、近くの博物館へ出掛ける事もある。併設の小規模多機能型居宅介護施設に散歩の帰りにお茶に立ち寄ったり、お互い行き来し交流を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	那須塩原市の出前講座を活用し、講師の方々に来所して頂き楽しんで頂くことが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの主治医に継続して診てもらっている。通院介助は基本的には家族が行っているが、家族が通院介助行えない方は往診医に診てもらって主治医になって頂いている。往診時には職員が状態を報告し、家族がうまく伝えられない時は必要な情報を記載した手紙を医師に渡して頂くような体制を取っている。	入居者の通院は基本的には家族に付き添ってもらい、入居前からのかかりつけ医に診てもらっている。受診の結果は家族から事業所職員に口頭等で説明してもらっている。家族の協力が得られない場合などは、往診医に主治医になってもらい、受診結果を口頭や電話等で家族に伝えて、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に専従の看護職はいないが体調の変化、気づきがあった際は、すぐに併設の小規模多機能型施設の看護師にアドバイスをもらって適切な支援ができるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、かかりつけ医と連携し、紹介状などの入手、家族への状況説明などを行い、不安の除去に努める。入院してからも状態把握や病院関係者との情報交換や相談のため面会し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重症化や終末期の医療ニーズの高くなった場合の施設としての対応、できる範囲や協力病院、主治医との連携について提示説明している。寝たきりになった場合には、他の施設の紹介もしていきたい。	現在入居している方の介護度が高くないこともあり、家族等から重度化、終末期に関して特に要望はない。グループホームとして、共に楽しみながら暮らしていただくことが基本との考えから、重度化した時には他の施設を紹介するなどの対応を考えている。	重度化や終末期についての職員研修は実施しているので、重度化や終末期への対応がどの程度まで実現可能なのか、今後も検討を継続していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様急変や事故発生時に備え、全職員が救急救命法の講習を受け、万全の体制を取っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。今回は地震から火災が発生したという想定で訓練を実施した。次回は昨年同様夜間想定での避難訓練を実施する予定である。	年に2回、昼と夜間想定での避難訓練を実施している。昨年度の訓練の際、初期消火を忘れてしまうというミスが起きたが、検討を重ね今年度は間違いのない対応がなされた。消防署が近くにあり色々協力いただき、関係も良好である。AEDを設置したが、いざという場合に適切に対応できるよう、職員全員がAED操作を含む普通救命講習を受講している。	夜間は併設の小規模多機能型居宅介護施設の職員と相互に協力する体制はできているが、今後、地域の消防団や近隣住民の協力が得られるよう、粘り強く働きかけていくことが大切かと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、入居者様の立場、気持ちを理解し寄り添うケアと気配りの出来る優しい声掛けを心掛けている。	職員は、慣れ親しんだ入居者にも、丁寧な言葉かけをするよう心がけている。入居者の病状の進行による怒りやイライラなども、穏やかに受け止め、ゆっくりと話を聞くことで、落ち着いた気持ちに戻れるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者様に問いかけることや傾聴の態度に努め、入居者が自己決定出来るよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムに合わせて、手を出しすぎないように注意して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りのものを持参され使用している。お化粧品も実施し、大変喜んで頂いた。月に1、2度出張理容の方にも来て頂いている。髪の色を見ながら家族にヘアカットを勧めたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のペースや体調に合わせて食後の片付けやテーブル拭き等出来ることは積極的に関わってもらうように努めている。	入居者一人ひとりの好みを把握し、季節感のある献立を工夫している。週3回昼食のおかずを業者から届けてもらっているが、それ以外の食事はすべて職員が作っていて、入居者もできる範囲で食事作りや片づけなどを手伝っている。誕生日には好物を用意したり、日曜日はホットプレートを使ったおやつ作りをするなど、入居者が喜ぶ工夫をしている。ミニ菜園で採れた野菜を職員と入居者が一緒に調理して食べることもある。寿司やうどんなど、希望を聞いて外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調把握し、食事内容や量など配慮している。食事量と水分量はチェック表に記載している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を説明し、食後は必ず実施して頂いている。自力で出来ない方には、介助で実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや入居者様の様子観て誘導行っている。生活パターンと残存能力に応じた誘導や排泄用品の使用に努めている。	現在おむつを使用している入居者はいない。トイレが居室に近いこともあり、夜間の排泄もスムーズである。トイレへの誘導は必要に応じて声かけをし、一人一人の排泄チェック表を作成して、入居者の体調管理に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きが良くなるように飲食物で調整したり運動で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決まっているが、1対1の個浴でその人に合わせてのんびりと入浴して頂くようにしている。日々、入浴剤を入れ楽しんでいただいている。	入浴は時間や担当が決まっているが、男性職員の介助を嫌う方は担当を代えるなど、臨機応変に対応している。入浴を嫌がる方にも、無理強いをせず様子を見て声掛けするよう努めている。職員と入居者が一対一の入浴時間は、普段は聞けない一人ひとりの話をゆっくり聞く機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイキングや布団干しなどを行い、衛生面に気をつけ安眠につなげている。又、入浴後や食後には、個々に休息を取って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の説明書が確認出来るようファイルに提示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かし、毎日楽しみながら生活できる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日には、散歩に行ったりしている。又、外出ドライブで外食を楽しんだりもしている。今後、家族様や地域の方にも参加して頂けるよう支援していきたい。	近所を散歩したり、スーパーへの買い物など、外出する機会は増えてきている。家族の同行でお墓参りなどに行く方もいる。事業所では定期的に外食も楽しんでおり、今後は家族に通知して、花見などに一緒に行きたいと考えている。散歩に付き添いをしてくれる学生ボランティアの活用も考えている。	外出の希望があっても限られた人員の中から付き添いを出すことが難しい場面も多く、職員もジレンマを感じている。ボランティアを積極的に活用するなどの工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金を管理者が預かっている。パン屋来所時は、好きなものを選んで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている入居者様は自ら電話をしている。ご家族からの電話は、希望により本人様につないでいる。自ら手紙を書いている方もおり、投函などの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて切り絵や手作りカレンダー、生け花など入居者様の作ったものを共用空間に飾っている。又、毎朝入居者様が主となって掃除を行っている。気持ち良く過ごせる空間作りをしている。	共用の空間はゆったりと広く、明るく、ゆとりを感じさせる。居室の近くに設置されたトイレや、廊下の途中にある一休み用のベンチや畳台、風呂場前の廊下にもテレビとソファを置くなど、随所に工夫が感じられる造りとなっている。広いテラスは、夏の流しそうめんなどの行事にも利用されている。明るい木目調の床は、冬は床暖房が入り暖かいと好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて独りの時間が作れるようにしたり、場所を変えてゆっくと談話できるように誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が持参された馴染みの物品を活用している。本人の混乱を少しでも避けるように配置等の工夫もしている。	居室ごとに壁紙やカーテンの色が異なり、明るい木目調の床と白を基調にした壁紙は、すっきりとした清潔な印象を与える。入居の際持ち込むものの制限はなく、それぞれがなじみの家具に囲まれて生活している。職員が部屋の掃除や整理を一緒にしながら、入居者の心情や状況の把握に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全に過ごせるよう配慮されている。自立した生活が送れるよう出来る事は、行って頂くようにしている。		